

様式第3号(第9条関係)

会議結果

次の附属機関等の会議を下記のとおり開催した。

附属機関等の名称	令和4(2022)年度第2回みよし市教育振興基本計画推進委員会		
開催日時	令和5(2023)年2月27日(月) 午後2時から午後4時30分まで		
開催場所	みよし市役所 6階 601・602会議室		
出席者	<p>委員長：大村 恵 副委員長：宮田 安弘 委員：杉浦美智子 大地由美子 春山 士朗 鈴木 誠直 辻 有記衣 佐々木真弓 富樫佐智子 鈴木 睦子 柴田 雅文 内田 弥生 近藤 憲司</p> <p>事務局：増岡教育長 木戸教育部次長兼教育行政課長 新美教育部参事兼学校教育課長 加藤子育て健康部次長兼子育て支援課長 林スポーツ課長 村山資料館長 伊藤給食センター所長 二子石生涯学習課長 菅田学校教育課主幹 狩野学校教育課主幹 深谷学校教育課主幹 多治見学校教育課主幹 大成学校教育課主幹 金丸学校教育課副主幹 山内学校教育課地域連携担当 (計28名)</p>		
次回開催予定日	令和5(2023)年6月		
問合せ先	みよし市教育委員会学校教育課 電話：0561-32-8026 ファックス：0561-34-4379 メール：gakko@city.aichi-miyoshi.lg.jp		
下欄に掲載するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議事録全文 ・ 議事録要約 	要約した理由	
審議経過			
新美教育部参事兼 学校教育課長	本日は、ご多用の中、ご出席いただきありがとうございます。定刻になりましたので、ただ今から「第1回 みよし市教育振興基本計画推進委員会」を始めさせていただきます。初めに礼の交換をします。みなさま御起立ください。一同 礼 よろしくお願いたします。御着席ください。		
新美教育部参事兼 学校教育課長	それでは、主催者を代表してみよし市教育委員会教育長、増岡潤一郎よりご挨拶を申し上げます。		
増岡教育長	教育長 挨拶		

新美教育部参事兼
学校教育課長

続きまして委員の皆様につきましては、本日、三好高校校長であります平尾様、そして幼稚園父母の会、代表の熊谷様、保育園父母の会会長の増岡様から欠席の連絡をいただいておりますので、ご承知おきください。

ここからにつきましては、みよし市教育振興基本計画推進委員会設置要綱によりまして、委員長であります大村先生に進行をお願いしたいと思います。

ご挨拶を含めてという形になりますが、よろしく願いいたします。

大村委員長

皆さんよろしく願いいたします。今、やはり市民の目線で、この計画を見つめるということは、非常に大事になってきていると思います。

私からは三つの点について、ぜひ皆さんにもご検討いただきたい点がございます。

一つはコロナ禍で3年経ちました。まだ終わってないですが、その中で、子どもから大人も含めて、様々な影響が出ています。ダメージと言ってもいいと思っています。例えば、社会性の獲得です。人と人との交流が少なくなってきて、その中で勝ち取っていく能力とか経験とか、そうしたものが非常に乏しくなっているという問題があります。

それが、おそらく特に子どもたちにとっては、成長段階の3年間で、そうした形で過ぎたということは、非常に大きいのではないかと思います。私が日頃接している大学生にとっても、その影響は非常に大きいというように思っていますので、子どもは、なおさらだと思います。

あるいは、今もマスクをつけていますけれども、表情の読み取りが非常に難しいということから、コミュニケーションの能力と、の相手の気持ちを推し図る、相互理解です。これも失われてきているというように思います。

それから、運動能力です。これはもう、そういう研究も発表されていますが、子どもたち全体で、その運動能力が落ちていきますし、あるいは、高齢者の方で、健康面でも非常に不安が募るわけです。

そうしたコロナ禍3年のダメージをどう取り返していくのか、あるいはそれを今後withコロナの体制の中で、なるべくそうしたマイナスの影響が広がらないようにするにはどうしたらいいかということが、学校教育でも、社会教育でも、そういった視点が必要になっていると思います。

二つ目の問題は、これは次世代の学校とか、次世代の教育と言われるようなコミュニティ・スクール、地域学校協働活動、それからICT教育です。こうした新しい施策が進められているものを、どうやってその地域の隅々まで、そうした理解を広げるか、あるいはその豊かな実践を生み出していくのか、その辺が問われているかなと思います。

ICTもタブレットを配ればそれで済むというわけではあり

	<p>ません。それを活用して、子どもたちが面白いと思えるような、新しい発見ができるような教育実践はどうなるのか。あるいはそれが大人にとっても、そうした子どもたちの間で広げられているICT教育を、どれだけ理解して、また活用できるようになっていくのかという点が非常に大事だと思います。</p> <p>三つ目が、法律の問題です。この4月1日からこども基本法が施行されますので、こども基本法元年ということになります。昨年12月に民法が改正されました。懲戒権が削除され、体罰が禁止されました。ですから、学校においても、家庭においても、暴力によって、その子どもたちをコントロールするという事は、もう絶対駄目だということになってきています。これは虐待においてもいじめにおいても、その温床をなくしていくということで、そうした家庭づくり、学校づくりを、来年度は取り組んでいかなければいけません。もう一方で子どものこども基本法で、特に、子どもの意見表明権、子どもに関わることは、子どもの意見を聞かなくてはいけないということになりました。ですから、これから地域づくりにしても、学校や家庭をつくっていくにしても、子どもは大人のパートナーだと、そうした取組ができるかどうか、新しい時代に入っていきののだということ、私たちは考えたいと思っています。</p> <p>今まさに、学校や家庭、地域が変わろうとしているときですので、ぜひ皆さんのご意見をお聞きしたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
大村委員長	<p>それでは、次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>まず、みよし市教育振興基本計画及び推進委員会について、事務局からご説明お願いいたします。</p>
事務局・大成	<p>それでは、本計画の概略についてと、アンケートの結果についてまでご説明したいと思います。</p> <p>前のスライドを見ていただくか、お手元にスライドを印刷したものを用意いたしましたので、どちらかで見ていただければと思っております。なおアンケートにつきましては、資料1で詳細が書かれておりますので、詳細については資料1をご覧ください。</p> <p>本計画の概略につきましては、要項に示させていただいている通り、学ぶ楽しさで、人と人をつなぐことを基本理念とし、目指す人間像の育成のため、計画、実施をしていきます。本委員会の役割は、教育プランの進捗状況を確認いただきながら、ご意見、ご助言をいただき、PDCAサイクルを確立することにあります。</p> <p>本年度は、令和3年度の間見直しから、2年次を迎え、市民アンケートの年度となっております。12月から1月にかけて、市民、保護者、小中学生、教員を対象にアンケートを実施いたしました。</p> <p>現在の教育振興基本計画の成果指標をもとに、進捗状況を把握いたしました。</p>

それでは本年度実施いたしましたアンケート結果について、ご説明いたします。アンケートの対象として、市民、小学校5年生、中学校2年生とその保護者、教員を対象としました。合計約3800人を対象にアンケートを実施いたしました。回収率につきましては、要項にお示しした通りになります。それでは各項目につきまして、一つずつ概略を説明させていただきます。

1 学校教育の成果についてです。中学生の学校生活全体に対する満足度は増加傾向にあります。小学生、保護者の満足度の大変満足の割合が、減少傾向にあり、学校教育全体を俯瞰的に見ていく必要がある結果となっております。

2 学校教育に期待されていることの結果です。市民、保護者とも共通して、基礎的知識技能を身に付けさせること、思いやりや優しさの心を育むことを期待している割合が高い結果となりました。教員も同様に、心の教育を大切に指導に当たっていることがわかり、方向性は一致していると思われました。

3 現在の学校教育の課題についてです。どの項目においても、改善の傾向が見られました。特に、進学中心の教育、道徳教育は心の教育についての項目が大きく改善されております。道徳教育の充実を図ってきたことが成果としても感じられました。また、施設設備につきましても、十分に整っていないと回答する保護者が大きく減り、大規模改修等の成果が感じられます。課題としては、基礎的な学力の定着と個性を伸ばすことについては、他の項目よりも高く、現在の学校教育の課題として考えられます。

4 日々の授業についてです。小学生中学生ともに友達と話し合う、観察や実験などの授業が好きの回答が大きく増加しております。これまで取り組んできた学び合いのある事業づくりを重ねてきた成果が見られます。また、コロナ禍で活動が制限されたこともあり、実体験を通して学びを進めたいという思いをもった子どもたちが多いことが伺えます。これまでもコロナ対策をしながら、できるだけ体験ができるように取り組んでいただいておりますが、引き続き、実体験を伴った授業改善に努めていくことが必要だと考えました。

5 学校施設の安心、安全、快適についてです。肯定的に感じている小学生、中学生、教員の割合が高まっております。

先ほども述べましたが、計画的に大規模改修を行っている成果が、こうした肯定的な意見に繋がっているとも考えられます。

6 部活動についてです。小学生の満足度に大きな変化は見られませんが、中学生において満足度の割合が高まっております。朝練の廃止や、土日の部活動の制限など、限られた時間の中で、適切適度な活動量として進められていると考えられます。また、勝ち負けや賞よりも、楽しくやりたいと回答した小中学生の割合が増加しており、生涯スポーツとして、

友達と体を動かすことへの楽しみを感じていることが、伺えました。一方で、もっと練習して強くなりたい、うまくなりたいという小中学生の割合も高い結果となっております。自由記述には部活動の時間を長くして欲しい、試合をしたい、勝ちたいという小中学生の記述もあり、小中学生、保護者、教員の思いをもとに、今後の部活動のあり方を検討する必要があると考えます。

7小中連携についてです。小中学生のとても不安、とても不安だったという割合が年々増加しております。不安を感じながら、中学校に入学している子供が増えていることがわかります。コロナ禍の感染防止により、小中学校の交流が制限されていることが影響していることが伺えます。小学生にとっては、実際に授業や行事を見たり、先輩から話を聞いた中から、中学校を身近に感じ、先輩との繋がりをもつことが、中1ギャップの解消に繋がることが考えられます。各中学校区で調整を行い、実施できるものから、実施できればというふうに考えております。また自由記述には、他の小学校同学年との交流と回答した中学生もおり、今後の参考にしたいと考えております。

8学校給食については、約9割の子どもたちが満足していると回答し、引き続き高い満足度の状態が続いております。継続して安全安心な学校給食を継続していきたいと思っております。

9心の教育についてです。全体的にどの項目も肯定的な回答が多く、道徳教育に力を入れてきた成果が見られます。しかし、人の役に立つ大人になりたいという質問に、当てはまると回答した小中学生が年々減少傾向にあります。学校生活をはじめ、多くの場面を通して、人の役に立つ経験が不足していることも考えられます。自己肯定感、自己有用感を高める取組の充実を図っていく必要があると感じました。

10学校教育と地域との連携についてです。コミュニティスクールを中心とした、地域の教育力の活用について、保護者、市民、教員ともに肯定的な回答がほとんどです。しかし、協力、参加できる保護者は限られており、学校と保護者の連携が、やはり課題となってくるというふうに思っております。

11みよし市の教育全体の充実等についてです。家庭教育、地域教育が充実してきていると実感する教員が増加しております。各校が地域家庭との連携を中心に取り組んでいること、協力していただける関係づくりが進んでいることが伺える結果となりました。

12生涯学習の推進についてです。生涯学習への参加は全体的に増加しており、コロナ禍より参加を迷っていた方が受講を希望していることが考えられました。一方で、生涯学習をしたいと考えた時の課題としては、資料にあげたような部分に課題があるという結果となりました。自由記述欄には、土日の講座があるとよいとか、オンライン講座と対面講座のハ

イブリッド型の講座がないといった意見もありました。開催日、時間対方法の検討により、より魅力的な生涯学習講座になると考えます。

13読書推進についてです。本を読むことが大好き、どちらかといえば好きと回答した小中学生の肯定群が減少傾向にありますが、中学生の大好き割合が増加しております。小学校から中学校へ進学し、日常的に朝の読書活動を行っていることが大好き割合の増加に繋がっていることも考えられます。一方で、1ヶ月に本をほとんど読まない、中学生の割合が年々増加しております。同時に小中学生とも二極化が進んでいることが、見てとれました。スマートフォンの普及により、動画の視聴などによる影響があると考えられました。

14スポーツ推進についてです。ここに示した通り、週当たりに行った運動やスポーツを行う機会が減少しております。コロナ禍で運動する機会の減少や、部活動の活動時間の減少が大きく影響していると考えられます。運動する機会の減少が運動量の減少に繋がっていることは明らかであり、体力の低下に繋がっていないか確認していく必要があると考えています。

15教育に関する情報の周知についてです。学校以外の相談機関について、案内チラシを年間4回、小中学校に配布しており、中学校卒業後の相談窓口の周知も行っていることが、知らない割合が減少している要因になっていると考えられます。今後とも、今後さらに有効な方法を考えていきたいと思えます。

16ふるさと学習の推進1・2についてです。結果からは少しずつふるさとみよし市に関するものがへの周知が進んでいることが伺えます。スライドの三つの黄色の項目、土別市木曾町との友好提携、石川家住宅、みよし市が有数の陶器の産地、この三つの項目については、コロナ禍で交流体験が中止になったことが影響し、知らないと回答する割合が増加している項目になります。

17教員に対する研修支援の推進についてです。教員が求めている支援として割合が増しているものが、不登校、ひきこもりに対する支援、発達問題、特別支援教育に対する専門的な支援、非行暴力行為に対する専門的な支援、外国人児童生徒やその家族に対する専門的な支援など、個々に対する専門的な支援の割合が高い結果となりました。すでに支援を始めているものもありますが、実態に合わせた効果的な支援方法を検討していく必要があります。

18今後本市が力を入れるべき教育課題等についてです。市民、保護者、教員ともに冒頭の質問紙にも出てきましたが、心の教育の充実、ICT機器を活用した教育情報モラル教育の充実、基礎的、基本的な教育の充実という部分で、協力して力を入れるべきであるととらえています。心の教育の充実、基礎的、基本的な教育の充実という部分は、2の学校教育に期

<p>大村委員長</p>	<p>待されていることや、3現在の学校教育の課題でも説明させていただいた部分と重なる部分になります。 以上アンケートにつきましては詳細をかつまんで、今説明させていただいた通りになります。 いかがでしょうか。よろしいでしょうか。また、後程グループワークがございますので、その時にグループの中で、協議していただければと思います。ありがとうございました。</p>
<p>大村委員長 事務局・大成</p> <p>大村委員長 事務局・大成</p>	<p>それでは続けて、教育委員会の点検評価における学識経験者の意見について、ご説明いただきます。 教育委員会の点検評価についてです。この点検評価は、令和3年度の実績、取組に対しての評価となります。 名古屋大学の石井先生からは、学校教育分野を中心に評価をしていただきました。良い評価をいただいたものは白丸、課題点や改善の視点を与えていただいたものは、黒丸で載せてあります。 コロナ感染拡大による柔軟な対応や、授業づくりの推進、モバイルルーターの試験的な運用、年間16回のみよっこひろばの実施について、良い評価をしていただきました。改善点としては、不登校の子が増えている現状を考え、SNS等の新しい相談ツールを用いた相談活動や、子どもたちがスポーツや文化を享受できる体制づくり、子育てに困っている家庭への重層的な支援体制、継続可能か可能な形でのコミュニティ・スクールの設置を中心に、現在の教育への課題について改善の視点を示していただきました。 愛知教育大学の中山先生からは、主に生涯学習分野について点検評価をいただきました。多くの生涯学習講座が企画、実施できるように取り組んだこと、電子書籍サービスの開始、形だけではない三好中学校における学校運営協議会について、良い評価をいただきました。 一方で、サンライズ以外の他の施設を活用した社会教育事業の推進や、すべての子どもたちのための社会体育行政や、文化行政の充実、学校と資料館の協働の追求について改善していくとよいというご意見をいただきました。 お二人の先生方からいただいた意見を踏まえて、資料3・4にあります20の作戦PlusOneに関わるご意見は、担当課の方が作成に役立てていただいておりますので、よろしく願いいたします。以上になります。 ありがとうございました。それでは学識経験者の意見について、ご説明いただきましたので、この点についてご質問等ありましたら、いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。 この後、グループ協議をお願いしておりますが、要項1ページにグループ協議のメンバーを示させていただいております。各グループの協議については、資料3の20の作戦PlusOneの進捗状況と、次年度の見通し。資料4、体系別全施策の進捗状況と、次年度の見通しについてご協議ください。</p>

<p>大村委員長</p>	<p>なお、資料3、4ともアンケート結果を受けて、令和5年度の計画について記載させていただきました。あくまで現時点での予定ですので、アンケート結果等を含めて、ご意見いただければと思っております。各課の担当もグループ協議に入りますので、ご質問等はグループ内で行っていただければと思います。各グループABCともに、学校教育課の指導主事がつきますので、話し合いの取り回しが必要であれば、お申しつけください。グループ協議の後に話し合われたことを紹介していただき、全体で協議内容を共有したいと考えております。</p> <p>各グループについて確認させていただきます。グループAは子育て支援の部分を中心にご協議ください。Bグループは学校教育の部分を中心にご協議ください。Cグループは生涯学習社会教育、地域連携の部分を中心にご協議ください。よろしく願いいたします。以上です。</p> <p>それでは進め方について、何かご質問はありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、ただいまからグループでの協議の時間とさせていただきます。15時25分まで40分間、協議時間としたいと思いますので、それぞれ活発なご協議をいただければと思います。それでは、各テーブルで進めてください。よろしく願いいたします。</p>
<p>菅田学校教育課主幹</p> <p>杉浦委員</p>	<p><Aグループ協議></p> <p>ここのグループは子育て支援について進めていきます。資料3でいくと、作戦1から4と10になります。今年度の取組で、課題が何なのかということ、またここに書かせていただいている来年度からの取組の方法は、これでよいのかということをお聞きからご意見をいただければと思います。点検評価の部分であがっていた課題や成果も含めて、ご意見ください。例えば、年間16回のみよしっ子広場がきちんと成果としてできてきている反面、子育てに困っている家庭の重層的な支援体制の構築が、進んでいないのではないのかという課題もいただいております。今まで、こんなことをやってきたが、これは、やはり課題ではないのかというようなことを中心に、まずはいろいろ意見をいただきたいと思います。</p> <p>名古屋大学の先生からの重層的な活用の仕方、相談活動を重層的にという言葉があり、すごく印象に残りました。重層的な支援体制は、どういうことをイメージしていただいたのですか。支援を必要としてみえる家庭がたくさんあると思います。みよし市さんに限らずどこでも。例えば、シングルマザーさんで、困ってみえるだとか、子どもの発達状態が不安で困ってみえる方がいると思います。若いお母さんが、それぞれ多種多様に困ってみえると思います。今はおじいちゃんおばあちゃんに知恵をかりるという風潮が全くないので、どこに聞いていいのか困ってみえる方が多いと思います。必要なお家庭に必要な支援が届く体制を整えることが一番大事だと思います。ところが、困っているけれど、そういう手だ</p>

	<p>てが分からなかったり、どこに相談していいか分からなかったりします。作戦4で困難さを抱える家庭に対する個別支援の充実という中で、学びの森を中心とした教育相談体制を整備しますという時に、困っている保護者が相談窓口相談、連絡すると、ハートケア教育サポーターや専門相談員とつないでいくプラットフォームみたいなイメージをしています。それがあっていいですか。プラットフォーム的な立場でつなぐ、つないでいく。心理士さん、カウンセラーさんとつないでいくんでしょうか。プッシュ型が必要なところには、こういう支援があります、こういう窓口があります、こういう専門家がいますと積極的につないであげないと困っているご家庭が、手をこまねいているだけだと思います。今のご家庭の方で、本当に困ってみえると思うので、その重層的というか、いろんな困り事を抱えてみえたら、このことについてはここで、この人と手をつなぐといいです、このことだったら保育園の園長先生に相談してみまじょうとか、そういうことを言ってみえるのかなと思います。重層的という単語を取り上げました。それと合わせて、私が思ったのは、その必要なお家庭には、積極的にプッシュ型の支援とか、いい意味でのおせっかいの支援が必要なお家庭があるというのは、私の感覚です。そういうことから言うと、みよし市さんの支援体制はいいと思います。手厚いなと思いますので、そのいいところを、より機能的に動いてくれている子育て支援の専門家の意見を知りたいです。</p>
菅田学校教育課主幹	<p>学びの森にいるハートケア教育サポーターの方は、校長経験者の方ですが、社会福祉士の資格をもっていません。厳密に言うと、スクールソーシャルワーカーとは、違う形になります。今年度積極的に研修も出ていますし、つないでいますので、ソーシャルスクールワーカーと同じような動きができています。</p>
杉浦委員	<p>ハートケア教育サポーターは、どういう方なのですか。市の職員なのですか。どんなお立場の方で、どんな資格をもっているのですか。専門相談員というのは、どんな方でどんな資格をもっているかを教えてください。学校とかの関係機関につなぐのは分かるのですが、窓口になる方々は、退職校長さんだとは思いますが、資格とかはありますか。退職校長先生は、西尾市も退職校長2人入っていますが、多分資格はもってみえないと思います。今までの経験値で、寄り添った対応をしてくださっている。それでもいいですが、専門的な立場からアドバイスいただけることを、今の保護者は求めていると思います。西尾市は、たまたま今年退職される校長先生が、公認心理士の資格を取られました。公認心理士は、国家資格になります。そのような資格をもって、なおかつ経験がある方が入られることがいいことだだと思います。経験値のみではなく、専門的な方であったり、スクールソーシャルワーカーさんであったり、カウンセラーの資格をもつ</p>

	<p>ている方などの専門家の方のご助言は大切だと思います。すごく説得力があるし、寄り添う体制が身につけていらっしやるので、素晴らしいなと思った経験があります。その体制がすごく整っているからこそ、専門的なご助言につないであげたり、いろんな専門家であったり、本当におじいちゃんおばあちゃんの知恵であったり、いろんな形で支援を重層的にできるとよいと思います。実は私は一応附属幼稚園の園長もやらせていただいたことがあって、スクールカウンセラー、専門職の方が週1回、幼稚園にも来てくださり、カウンセリングしていましたが、すごく専門的で寄り添った相談で手厚く、カウンセラーがいらっしやる水曜日は、やはり先生のご助言がとてもありがたかったです。保護者は、専門家の立場からみて、自分の子の状態をすごく知りたがりです。需要がものすごくありました。子どもの動き方は専門的に言えば、どうなのかというのをすごく求められて、ニーズがあるなと思った経験があります。いろんな人材を今後入れていく中で、資格を取っていただくとか、研修していただくとかというのは、いい方向だと思います。</p>
菅田学校教育課主幹	<p>まず質問のところで、ハートケア教育サポーターの立場の方と専門相談員の立場について、ハートケア教育サポーターの方は、校長先生を退職された方が、お二人就いています。先ほど申し上げたとおり、年5回の研修に参加しています。研修に参加しながら、力をつけて業務にあたっていただいています。専門相談員は、臨床心理士の資格を持った心理士が二人、学びの森に常駐しています。また、夕方しか時間がないご家庭のために、6時から8時まで市役所でも相談を行っています。専門相談員は、臨床心理士の資格をもっており、支援ができる体制を整えているという状態です。</p>
杉浦委員	<p>すごく手厚いと思います。専門的な方が入ってみえるし、しかも6時から8時が素晴らしいです。市役所は、5時くらいで終わるので、安心いたしました。</p>
菅田学校教育課主幹	<p>週に1回ですが、木曜日の1日だけ、6時から8時まで市役所で相談を行っています。それ以外の曜日は学びの森で、朝9時半から夕方の4時半までの時間です。</p>
増岡教育長	<p>火曜日だけ実施できなくて、来年度からようやく火曜日も実施できるようになります。あとは土日です。</p>
杉浦委員	<p>土日もぜひお願いしたいです。すごくよい動きをしていて、手厚く、しかも専門的な方がきちっと入ってみえるのでよいと思います。今のお母様方は、ネットとかでいろんな断片的な知識をもってみえます。子どもの発達についても知識ももってみえますが、自分の子どもの状態と、その専門的な情報がきちっとリンクするには、やはり対面で相談しないと納得されていかないし、正しい子育ての勉強にならないような気がします。今の体制がとてもいいと思いますので、元校長先生方も勉強されて、その体制をさらに充実拡充を図ってほしいと思います。</p>

菅田学校教育課主幹 辻委員	辻先生いかがですか。
	私たちが日頃から、質問とか、相談とかを日々受けていますが、やはり専門の方が見てくれると話をすれば、お母さんたちは、ぜひお願いしたいとおっしゃっていただく方が多いと感じています。
杉浦委員	みよし市内にある先生の保育園ですとか、他の保育園に、直接カウンセラーが来ますか。
辻委員	来ていただけます。やはり発達センターとかは敷居が高いと思われる方が多いです。お家の中で困ってないかもしれないけれど、集団の中でやはり困り感があるお子さんはたくさんいます。どこでつまづいているのか、私達がどう対応してあげたらいいのかというところを、見ていただき、お話を伺いします。そういう形で、本当にたくさんの方が利用されてみえます。
杉浦委員 辻委員	それはお母さんも一緒ですか。
	園での様子を見ていただいて、私たちがアドバイスをもらって、それをお母さんに伝えます。お母さんがより詳しく聞きたければ、直接お話を聞くこともできるという形で、進めています。
杉浦委員 辻委員	今、実際行われているところですか。
杉浦委員	そうです。
杉浦委員	そういう形の支援も大事です。学びの森を中心として、窓口がプラットフォームになっていること、現場とつなぐ大切な体制だと思います。
辻委員	福祉のサービスとかって申請型なので、なかなかお母さんたちが自分から求めていくのは、本当に頑張る人ではないと分からないです。こちらがこういう相談があるよと言うと、積極的な方もいらっしゃいます。
杉浦委員	現場で見ている先生方が、専門家とつないでくださる体制はすごくよいと思います。
菅田学校教育課主幹	巡回相談ではないですが、次小学校に入学する気になる子や、入園したばかりだが、気にかかる子は報告をいただいて、専門家の意見を聞きたいという方には、子育て支援の心理士が、教育相談を行っています。必要に応じて、学校教育課の指導主事も、就学を控えているお子さんであれば、様子を見たり、必要に応じて園の先生にも、小学校では必要になる力等を話したりすることもあります。
杉浦委員	すごくよい体制だと思います。私は幼稚園や保育園の先生方に、困りごとを聞いたことがあります。保護者は、保育士が言ってもなかなか聞いていただけないが、小学校の先生からの話は聞いていただけたりする。すごく頑張ってみえて、素敵だなと思う保育士さんたちから、やはり就学指導については、小学校の先生に言ってもらいたいとおっしゃったことがあります。こんなにしっかりした保育してみえるのに、そんな思いがあることが分かりました。こんな方針で保育を行って、意味や価値があって、小学校につながるために必要な

	<p>ことを、専門家の立場で認めて評価してほしいです。また、それを保護者に伝えながら、小学校とつなぐことを今から心がけていくような専門家がいるといいと思ったことがあります。そういう意味で、すごく意味があるし、充実させていただけると、保育士さんも助かると思います。保育の現場の方って、すごく苦労しています。</p>
増岡教育長	<p>教育支援、就学指導をやる担当の先生が、特別支援学校を知らないではいけないということで、令和5年度から特別支援学校で研修してもらいます。特別支援学校のことを知らずに特別支援学校を進められても、お母さん方はなかなか納得できないと思います。今年度も指導主事が、愛知教育大学の附属特別支援学校に年間3回行かさせていただいています。来年度は市内の先生が特別支援の研修を通して、見てきた話ができる先生を増やす予定です。管理職が話ができるようになれば、専門的な知識がスパイラルになると思っています。また、研修を積み重ねながら、学校の中の体制も作っていかねばならないし、就学指導もできるようにしていかなければならないと思っています。</p>
杉浦委員	<p>私自身、教務主任になったときに、校長先生から療育を行っているこども園へ行ってごらんと言われ、訪問させていただきました。療育のことが少し分かりました。その時から少しずつ親御さんに話す言い方も分かってきました。ですから、自信をもって話すことができ、保護者の方も信頼して聞いていただけました。やはり、そういう研修が教員にもいます。市役所の施策ということではなくて、教育全体の中で、インクルーシブ教育であったり、療育だったりということを理解する人材を厚くしてほしいと思います。先ほど、専門家と言いましたが、専門家だけではなく、一般教員から一般保育士たちも、そういう勉強をされると、子どもたちが幸せになるなというのを、ベースに思っています。</p>
辻委員	<p>私達から副主任ぐらまでは、療育の現場で経験をします。発達センターの方にも、みんなで研修・実習に行かさせていただいています。</p>
増岡教育長	<p>みよし市の保育士さんたちは、みんなで集まって研修を行ったりしているので、本当に頑張っている。支援することがあれば保育園に支援します。逆に市として保育園の先生たちが、そのやる気がなくなってしまうのは困るので、小学校の1・2年生を担当する先生と一緒に勉強するのいいと思っています。</p>
杉浦委員	<p>私もそう思います。いろんな市でそのような勉強をきちんとされてみえるのですか。</p>
増岡教育長 辻委員	<p>みよしの保育士さんたちはすごく熱心です。 発達センターに、療育で週2回、月に1回とされる場合も、お母様に担任も一緒に見学させてもらったり、どんな支援をしていかなければならないかと考えながら取り組んでいるところがたくさんあります。また、小学校一年生の担任の先生</p>

<p>菅田学校教育課主幹 杉浦委員</p>	<p>が決まった4月1日の日に、前の担任と、小学校の新しい担任の先生が打合せをさせていただける機会もあります。数日過ぎてからの交流は、もちろんありますが、その前の年度からすごく見学も行かせてもらい、つながりもとらせていただいて、ありがたいと思っています。</p> <p>みよし市は、園から小学校へのつながりの体制もできています。他に、来年に向けて気になる作戦はありますか。</p> <p>民間委託になるということがありました、どのような取組ですか。</p>
<p>加藤子育て健康部次長 兼子育て支援課長 杉浦委員</p>	<p>子育て支援センターです。特に、直営でやっていましたが、人材不足ということもありまして、いろんなところにお聞きし、民間委託にしております。</p> <p>子育てに限らず、今いろんな情報、いろんな広報とか、家庭だよりはぐくみとか、いろんな情報を紙媒体で出してみえます。じっくり読めるとか、繰り返し読めるという点でいいと思いますが、今は市のホームページや、SNSで情報を得る人が多いと思います。特に若い子は、その傾向があると思います。ホームページに、いろんな相談窓口が全部載っていますか。そのホームページをみると、いろんな相談窓口も、簡単に見られますか。</p>
<p>菅田学校教育課主幹 杉浦委員</p>	<p>学校教育課の相談窓口をホームページで検索することができますが、基本的に配布した紙媒体が見られる状態になっています。スマホだけで調べると、少し分かりづらいかもかもしれません。</p> <p>PDFだけですか。</p>
<p>菅田学校教育課主幹 木戸教育部次長 兼教育行政課長 杉浦委員</p>	<p>そうです。</p> <p>ツールとしては、子育てアプリはありますので、それを赤ちゃん訪問したときに、チラシを配りながら登録をしてもらうPRをしています。そのため、一応年齢を入れていただくと、健診の情報等がでてきます。そういった情報はプッシュ型でメールで配信しています。また、検索してもらえば相談窓口等も出てきます。</p>
<p>菅田学校教育課主幹 杉浦委員</p>	<p>今の保護者は、広報みよしを読まないと思いますので、そのようなプッシュ型の配信があるといいと思います。</p> <p>子育てさんが委託でやっているみよぴよと言われる子育て支援アプリは、いろんな情報が載っています。</p> <p>見やすいと思います。今の人たちは、新聞を購読していないから、いろんな情報をホームページから受けるようになった方が、よいと思っています。</p>
<p>菅田学校教育課主幹 辻委員</p>	<p>朝、登園やお休みの連絡も、電話ではなく、携帯でできるようになっています。そうすると、いつもなら、そっけない感じのやりとりの方が、携帯で送っていただける文章ではすごい載せてくれます。携帯の方がコミュニケーションがとりやすい方がいらっしゃると思っています。</p> <p>働きながら子育てをする市民の方を応援するという作戦2の来年の利用ニーズに合わせた募集時期の見直しについて、</p>

<p>杉浦委員</p> <p>加藤子育て健康部次長 兼子育て支援課長</p> <p>杉浦委員 加藤子育て健康部次長 兼子育て支援課長</p> <p>杉浦委員</p> <p>木戸教育部次長 兼教育行政課長</p> <p>杉浦委員 辻委員</p> <p>杉浦委員</p> <p>辻委員 杉浦委員</p>	<p>ご意見ありませんか。</p> <p>働くお母さんたちや、お父さんたちを応援するという部分ではどうですか。基本的には、児童クラブを申し込まれる方は、増えていますか。児童クラブは、今のところ入りたい人はみんな入れますか。受け入れ可としていますか。</p> <p>実際のところは移送事業をやっているの、何とか受け入れてはいます。ただ、5・6年生はなるべくご家庭でという話をさせていただきますが、6年生も預かってくださいという要望があります。そのため、全部というところまであんまり手が届いてない状態です。全部を受け入れると、受入れ可能人数の話につながってきます。</p> <p>実際、6年生でも児童クラブに入っている人はいますか。</p> <p>やはり要望もあり、入っている人もいます。保護者からすると、安心だという部分があると思います。預かっていただけるのが一番安心という方もみえます。5・6年生でも子どもが家で一人であるよりは安心と考えてみえると思います。</p> <p>みよし市では6年生まで受け入れていただけるんですね。他の市町でも6年生までが一般的ですか。</p> <p>制度としては、6年生まで引き上げたいが、市町村によって、受入れ可能人数に応じて、3年生とか4年生とかまでと、基準を区切っているところはあります。</p> <p>充実の方向性はいいと思います。</p> <p>世の中、安心、安全が一番という時代かなと思います。やはり、大人がいてくれれば、安心という思いが大きいと思います。</p> <p>小学校に勤めていた時は、児童クラブさんが預かっているだけではなくて、ある程度教育的な活動をしていらっしやったので、頭が下がりました。スポーツをやられたり、運動場を使われて上手にゲームをやらせたりしていました。児童クラブの活動もすごい工夫していらっしやると思います。これだけ充実した体制をとって、充実していると思います。教員の経験がある方とかが指導者としてやられて、内容の充実も合わせてやっていかれると、さらによいと思います。やってみえると思いますが、宿題とか見てくれたりとかもありますか。</p> <p>見てくれると言っていました。</p> <p>家にいるとユーチューブ見ることが多いけど、生活リズムが違います。</p>
<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p><Bグループ協議></p> <p>学校教育関係ですので、各メンバーの実情、保護者の立場として、俯瞰して学校現場も見ていただいていますので、トータルでご意見いただけたらと思います。基本的には、このみよし教育プランについての今年度のアンケート結果から、いいことは当然継続していくのですが、これからのことを考え、もう少し力を入れて取り組んでいくとよいという視点で、ご意見いただけたらと思います。例えば作戦6の1についてで</p>

	<p>すが、子どもがICTを活用する力を育てますということで、今学校現場では、一人一台タブレットが入っています。学校で授業や、教育活動で活用していますが、この結果を見ると教員がそのICTを活用している力・認識は高くなっているものの、学校現場からは、トラブルがあったときの対応で、サポートしていただける体制の充実を望む声を聞いております。学校の活用状況だとか、困っている点がありましたら、お伺いできればと思います。</p>
<p>鈴木誠直委員</p>	<p>活用は日常化はしてきています。タブレットを使った授業は低学年においても高学年においても、みんな使っている状況です。ただ、新しいことに取り組んだりするときには、ICTのサポーターがいる日に限定して、入れていくところがあります。ICT支援員の方に頼るところは非常に大きいです。どうしてもトラブルが発生します。つながらない子に対応していると、授業が進まなくなってしまう。やはり、ICTに関係する支援員とか、サポーターの方の充実は、強く望むところでもあります。</p>
<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p>中学校の活用はどうか。</p>
<p>宮田委員</p>	<p>中学校の方も、毎日使っています。一人一人が考えを打ち込んで、みんなが見える場に送信し、その考えを見合って学び合い、考えを深める活用の仕方が結構多かった。また、南中学校ではスタディサプリを宿題で取り組んでおり、タブレットを自宅でも使います。確かに、コンピュータに堪能な人がいないと、なかなか苦しいところがあり、教員が対応に困っていると助けていただけ、ありがたいです。</p>
<p>春山委員</p>	<p>研究員がICTの活用について、どうやって進めていくかという取組を行っています。各校一人ずつ研究員を出して、共有しながら進めています。研究員の実践が大変全校によい影響があります。来年度もそのような取組・手だてを継続していくのか、それとも、市内の学校で指定して研究していくのか、どういう方向でいくのがいいのかと思っております。市としては研究員をやっていますが、教員の集団でも学習情報部会という市教研の研究の組織があります。連携して推進校を作るのか、研究員は別のことをやるのか、組織づくりを工夫していく必要があると感じております。</p>
<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p>各校ICT機器を使っの授業や取組を、各校から持ち寄って、みんなで協議しながら、事例集を作っています。その事例集を全ての学校で共有しています。他校での取組を参考に、自校での取組に生かす形で進めているところでもあります。ただ、これからどうしていくかということについては、当然学校と相談しながら進めていく方がよいと思います。ICTをより上手に使って、分かりやすい指導を目指していかなければならないと思います。佐々木委員、実際にタブレットを活用しているお子さんの様子とか、どうですか。</p>
<p>佐々木委員</p>	<p>持ち帰りがなくなりました。それなりにやっ</p>

<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p>るとは思ったんですが、持ち帰り以前に正しい使い方の教育を、まずはやっていただきたいと思います。子どもはゲーム感覚で使ってしまったたり、撮った写真をあげちゃったりしたこともありました。学校間での活用の差が気にかかっていたんですが、今お聞きしたように学校間で共有されているのであれば、保護者として安心しました。</p> <p>あくまでも、ICT機器がメインではなく、ICTを使った動画だとか、写真だとか、ツールとして活用を進めていかなければならないと思っております。佐々木委員、やはり興味関心が高いものですか。</p>
<p>佐々木委員</p>	<p>周りのお母さんから聞いたのは、宿題がタブレットになったことによって、宿題をやっている感じがなくなっています。小学生の保護者の方に聞いてもらおうと、そういう心配もあるのかなと思います。授業内で個人チャットをやっているというような話もお聞きしたことがあります。どうしても勉強以外で、使ってしまうことへの心配があります。</p>
<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p>使い方のルール等は、きちんと学校の方でも行う必要があります。便利な道具だが、使い方を誤ると、危険な目にあってしまいます。デジタルシティズンシップ教育といいまして、自分たちで便利なものを、よりよく使っていこうという教育を進めていく必要があります。近藤委員、今年度学校を見られて感じられたことはありますか。</p>
<p>近藤委員</p>	<p>タブレットを使うと、練習の問題が紙に変わって提示されます。調べるのも、タブレットで簡単に調べられます。私は学校訪問をさせていただいた中では、グループウェアの使い方が少なかったように感じます。3年程前になりますが、私が行っていた中学校は、グループウェアをよく使っていました。どの教科も、自分の考えを必ず書いて、一覧になって提示されます。提示された考えを、同じ考えや違う考えに分類されて、課題の解決に向けて取り組みます。そのような活用が少なかったと思います。特に、手を挙げない子たちというのは、どんなことを考えているのかなと思います。全員が課題に対して、自分の考えを表すことによって、自分と同じ考えに気づいたり、違った考えから学んだりすることもあります。そのような活用を授業で行っている中学校も結構ありました。その市町では少なくとも10年程前から、一人一台タブレットが配られて、よくNHKなんかも時々取り上げられていた学校です。みよし市は、導入が遅いので、現実的に進んでいくと、そういった使い方になっていくのかなと思います。また、少しずつ慣れてくると、先生方も初期のトラブルの問題ではなく、ICTでしかやれない活用方法に気づくのかなと思います。</p>
<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p>ICTは便利な道具という点で、間違いはないですが、それをいかに効果的に授業の中や学校行事等の教育活動の中で、取り入れていくかというのは、みんなでいい事例を共有しながら、高めていけるようにしたいと思います。他の視点での協議は</p>

<p>宮田委員</p>	<p>いかがですか。</p> <p>コミュニティ・スクールのお話が出ましたが、本校では4名の経験豊富な方が携わっていただいています。その方たちは、みよしは切り干し大根に適している土地柄だと言われます。校区が南部地区ですので、それを実際に目の前で、細くして、子どもたちが食べるのですが、食べた子どもたちが、本当においしいと驚きます。また、南中学校の前に愛知用水があります。これだけみよし市が発展したのは、愛知用水があったからだを教えていただきました。それから、トヨタ自動車の恩恵もあります。うまく地域と連携しながらやっていきたいと思いますが、ふるさと学習の中では、なかなか出てこず、もったいないと思っています。今度は、農家さんがデラウェアの袋がけをやらせてあげたいと申し出ていただいています。農業の後継者も、育てたいという思いもあり、いろいろなアイデアをくださいます。ふるさと学習に、こういった視点や取組が入ってきてもいいと思っております。</p>
<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p>昔は地域に開かれた学校とか、地域から信頼される学校という言い方がされていましたが、今は、地域とともにある学校ということがよく言われます。学校独自で進めることよりも、やはり地域の方と一緒に関わって子どもたちを育てていく流れです。地域の方々にサポートをしてもらいながら、子どもたちが地域の行事に積極的に参加できるように、学校からも働きかけをします。子どもたちが地域でも活躍することが求められていますが、小学校ではどうですか。地域の方々に支えられている活動はありますか。</p>
<p>鈴木誠直委員</p>	<p>地域の方に支えられている活動はたくさんあります。読み聞かせもあります。また、本校だと、ピオトープがありますが、地域の方々がメダカを入れてくれたり、草取りやプール掃除で協力していただいたりしていただいています。学校がやってもらうことばかりが多いのが現状です。地域へというところが課題だと思います。</p>
<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p>逆に、保護者の方に学校から声がかかりますか。授業参観はあると思いますが、学校で活動をするので、参加しませんかという案内はありますか。</p>
<p>佐々木委員</p>	<p>いつもは愛好作業があります。コロナでしばらくは、できなかったです。今年度から、今までコロナの関係で、行事も思うようにできなかったりしましたが、少しずつできるようになってきているところです。</p>
<p>新美教育部参事兼 学校教育課長 春山委員</p>	<p>春山委員、いかがですか。地域との関わりはどうか。</p> <p>4中学校の特色が違います。例えば、昔からある三好池祭、いいじゃんまつり、柿・なし・ぶどうは、南中学校区や三好中学校区が結構多いです。子どもが3年生で、町探検に出かけますが、校区によって随分違うなと感じております。それぞれの中学校区で、ふるさとを考えたとき、校区によって随分差が出てくると感じております。特に、北地区は新しい町</p>

<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p>ですから、どちらかというと環境整備や人のつながりでやっていくことが中心になります。今年も昔遊びだとかで、ご協力いただいております。町探検では、どうしても商業施設が多いです。みよし市全体の特色と校区の特色を、子どもがそれぞれ勉強して、自分の町はどうなっているかと関心をもって調べることを大事にしてほしいと思っています。</p>
<p>近藤委員</p>	<p>みよし市独自の副読本みよしがあります。いろんな商業施設や、農業に従事している方にインタビューをして、副読本としてまとめています。どの小学校でも、3、4年生で使って、自分たちの住んでいる町の特徴を学習していると思います。歴史民俗資料館に来るとなると、バスに乗ってくることにはなりますが、少し大がかりになります。しかし、北地区の方の小学生も、歴史民俗資料館を見学する機会をもてるとありがたいと思います。</p>
<p>佐々木委員</p>	<p>人口6万人規模の市町村ですと、資料館はみよし市よりかなり大きいです。博物館までとはいかないけれども、古代から現代までの歴史が、一通り学習できる施設があります。予算化されているところは、年に1回、市のバスで資料館に自分たちの歴史を調べに行くことを行っています。だから、そういった市町では6年間で、1人8回以上資料館で学習できるカリキュラムのために、予算化されています。そう考えると、みよしの歴史民族資料館は、規模が小さく、歴史を学べるものではないと思います。ですので、歴史民俗資料館をもっと充実させましようと言っていますが、もう少し賛成の声が大きくなると、予算化ができないと思います。そのことも含めて、ふるさと学習のベースを考えないといけないと思います。歴史民俗資料館へ行ったら、みよしの歴史が大体分かるという施設がない状態です。みよしの副読本だけでは、実物がないので、場所もしっかり変えて、もっとみんなが寄れるような資料館をつくとよいと思います。生涯学習と地域学習、ふるさと学習も含め、学習できる場所がほしいです。みなさん、本当に満足しているのかなと思います。豊田市は博物館です。だから、根本的に、みよしの郷土愛を感じるようなものがあるといいと思います。現実的に、自分たちの郷土を体感できるようなものが欲しいなと思います。全然不足してると思います。</p>
<p>春山委員</p>	<p>体験して、実際に触れてやっていかないと、興味をもたないと思います。入口として、そこから広げていくとよいと思っています。</p>
<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p>資料館に行くと、素晴らしいものがあって、そこから広げていけるといいです。</p> <p>よく授業で、教員が一方的に教えるというよりは、子どもたちが勉強したいなと思えるような工夫をします。同じように施設についても、行ってみたい、見てみたいと思えるような工夫、施設のあり方を考える必要があります。</p>
<p>近藤委員</p>	<p>非常にアピールが弱いと思います。戦いであっても、柴田</p>

	<p>権六たちが、300人亡くなっています。ですが、誰も知らないと思います。ほとんどみよしの人も知らないし、全然整備もしていません。おそらく猿投古窯にしても、まともな施設はひとつもないと思います。大岡越前はみなさん知っているけれど、その3分の1の年貢がみよしから納められていたことは、ほとんどご存知ないです。そういうアピールの仕方が弱いと思います。だから、その辺も含めた郷土愛を、他の市町は社会の関連施設とリンクして学習し、郷土愛が育つようにしていると思います。歴史資料館を総括するのは教育委員会なので、プランだけ作っても、実物にふれるものがないと、少し弱いかと思います。</p>
鈴木誠直委員	<p>以前、小学校の先生で、福谷城址はないですが、何もない城跡を誇りに思えるような子に育てたいと、授業をやっていました。そのような地域の学習ができるといいと思います。来年度150周年で、それを機会にして、地域のこととか自然のこととかを学習するいい機会もしれません。陣取山という地名がありますが、名前からして、絶対に合戦があったと思います。そういう機会をもつのはどうかと思いました。</p>
近藤委員	<p>古窯に対しても、最大の供給地でした。ものを焼いていたのはみよしでした。だから、みよしの焼き物が全国、東北から九州まで散らばりました。ですが、みなさん、そういうことも、ご存知ないです。歴史愛好家が知っているだけだと思います。今は自動車産業が盛んですが、昔はこういうところだというのも、学習できるようにしたいと思います。資料館が弱いと思っています。</p>
佐々木委員	<p>小中学校で歴史を調べる授業があると思います。せっかくタブレットはあるならば、調べられると思いますが、いかがですか。</p>
鈴木誠直委員	<p>いろんな情報を調べることができますが、資料館に行くということはなかなかないです。</p>
近藤委員 新美教育部参事兼 学校教育課長	<p>資料館が弱いと思います。 愛知用水ができたときの経緯や、みよし市の歴史を子どもたちが知ること、詳しく知りたいなという興味がでてくるかもしれないです。他のテーマはどうですか。</p>
春山委員	<p>子どもたちにとって、いいじゃんチャレンジが楽しくて、いい取組だと思いました。授業ではないけれども、全体で一体感があります。いいきっかけを作っていただいております。</p>
新美教育部参事兼 学校教育課長	<p>みよし市は、全国や県と比較しても、体力が低下しているとかはないです。ですが、今、家で子どもたちはタブレットを見る生活が中心です。集中的になかなか運動する機会がないので、市全体で条件を揃えて、8の字跳びの通信大会を企画し、何回跳べたか等を教育委員会に報告してもらっています。そして、回数報告を受けて表彰しています。少しでも子どもたちが運動する機会をもてるといいです。さらに、どの学校も体育委員会が企画をして、全校ドッチボール大会とかを行っていると思います。また、授業のウォーミングアップ</p>

<p>春山委員 新美教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p>プの参考として準備運動の時に、子どもたちは全身を使うことができるように、ウォーミングアップドリル集を作成してあります。どの学校でも、本格的な運動をする前に、体をほぐす運動として使っていただいています。帰宅後、子ども同士誘い合って、外で遊ばないですか。</p> <p>縄跳びは協力してやったそうです。</p> <p>そういう機会が減ってしまうと、子どもたち同士のコミュニケーションをとる機会そのものも少なくなってしまうと思います。孤立感ではないけれど、自分のことが中心になってしまうとかが考えられます。学校教育としては、みんなが一緒に学べるというのが一番だと思っています。これからは少しずつ制限が緩やかになっていくので、子どもたち同士のかかわり合い、自分を高め、お互いに高め合っていくようなになればと考えております。</p>
<p>近藤委員</p>	<p>作戦8の子どもの心の教育ですが、コロナ禍で、みよし市の不登校がすごく増えています。日本で以前からストレスマネジメント、不安へのマネジメントとか、マインドフルネスとか、アンガーマネジメントのような、心をどう健康に保つかということを、不登校の子は知らない状況です。自分の心をどのようにして平常に戻すかというテクニックを知らないです。北欧ではマインドフルネスもやっています。自殺が多かったので、国の施策として、そうならないような教育をやっています。日本も、もうひとつ先のことに取り組んでいかないと、スクールカウンセラーが週1回いても、追いつかないような気がします。学校で自分の心の状態をどう平静に保つかというのをやっていけば、学校ではなくても、就職しても、社会に出た時でも、いずれは役に立つと思います。不登校の子たちと実際に話してみても、非常にそれが弱いと感じます。育てていないから、カウンセラーの役割で、それを育てる仕事をしています。そうすると、大体みんな元気になって、学校へ変えていくことが多いです。</p>
<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p>本当に全国的に、不登校の児童生徒が増加して、みよしでも増加している状況ですが、でもそういった子どもたちの思いを聞く機会だとかが、学校では教員数に限りがあって難しいと思います。今、学校に来るけれども、なかなか学級に足が向かない子については、養護教諭や授業が空いている教員が相談の対応とかするけれども苦しいと思います。やはり、カウンセラーの充実は大切だなと思っています。みよし市には、学びの森があります。来年度、臨床心理士の配置が少し増えます。何とか心の声を聞けるようにしていきたいと思います。ご意見ありがとうございました。</p>
<p>事務局・大成 大地委員</p>	<p><Cグループ協議></p> <p>生涯教育が中心のグループ協議になります。作成の13番以降のコミュニティ・スクールや、生涯学習スポーツ推進について、ご意見いただきたいと思います。</p> <p>私は社会教育委員ですが、社会教育や生涯学習について、</p>

<p>二子石生涯学習課長</p>	<p>非常に気になります。この分野の作戦がなかなか進まないという話もあります。例えば作戦14の令和4年度の実績は、延べ人数で示されています。延べ人数で判断するとよいのか、実質人数で判断するのかよいのか。どれくらいの方が生涯学習講座に興味関心をもっているのかを判断するのであれば、実人数の実績で判断することも考えられる。このような見方ができるのかをお聞きしたいと思います。</p>
<p>大地委員 二子石生涯学習課長</p>	<p>成果指標につきましては、延べ人数でございます。基本的には、できるだけたくさんの方に参加いただくのが理想だと思いますが、現在のカウントの仕方としましては、講座を受けられた方の人数を単純に累計しております。一人の方が複数受けられている場合もございます。トータルの延べ人数という表示をさせていただいているのが現状でございます。できるだけ多くの方に体験、経験していただくのが理想とは思いますが、現在は、実際に受講した延べ人数であげさせていただいております。</p>
<p>大地委員 二子石生涯学習課長</p>	<p>実人数を出すことが可能ですか。 延べ人数ではない数を出そうとすると、今までの統計のとり方からいくと、過去の年度について新たに実人数でお示しすることは難しいと思います。</p>
<p>大地委員 二子石生涯学習課長</p>	<p>ねらいによっては、成果指標を実人数にすることもあり得ると思います。平日に参加できない方が参加できるように、土日開催を増やしていくようですが、実際に土日開催を増やして、参加される方が増えているのか教えてください。働いている方は、すごく疲れていて、土日でも参加するのは難しいと思っています。土日開催を増やしたことによって、参加者が増えるのであれば、すごく意味があると感じますが、いかがでしょうか。</p>
<p>二子石生涯学習課長</p>	<p>今年度も、土日の講座等を開催しております。開催すると、ある程度の参加人数は集まる状況ではございます。しかし、講座数を増やすとそれに伴って受講者が増えるかという点、想定よりも増えないという状況でございます。ニーズのある講座については埋まります。講座が終わりましたら、必ずアンケートを実施し、体験してみたい講座を把握するようにしております。今後もニーズが多ければ、土日開催の講座を増やしていくことも検討中でございます。また土日以外でも、サンライズ以外での講座の開催につきまして、来年度はおかよし交流センターで、講座が開催できるように準備を進めておるところでございます。現在のところ、7・8月に行う春夏講座につきまして、5つの講座で開催していくように、講師の先生と調整をしております。機会の増大という意味で、わざわざサンライズまで足を運ばなくても、三好丘地区の方でしたら、近いところで受けられるように、開催を計画しております。</p>
<p>鈴木睦子委員 二子石生涯学習課長</p>	<p>土日に開催している講座は、どんな講座がありますか。 5月だと言語の講座です。休みの日だとか夏休みには、お</p>

<p>鈴木睦子委員 二子石生涯学習課長</p>	<p>子さんが参加できるような講座があります。まだ講座数としては、そこまで多くはないです。やはり、限られるというところがあります。</p>
<p>柴田委員</p>	<p>人気があるのは、語学ですか。 やはり語学の人気があります。いろいろな好みの方が見えますが、料理は比較的根強く人気があります。特にクリスマス前だとか、お正月前等、時期に合わせたものになると、すぐに埋まるような傾向はございます。</p>
<p>林スポーツ課長</p>	<p>スポーツについての状況を教えていただきたいです。学校のクラブ活動を地域でやっていただくということが出ていますが、みよし市の今の進捗状況、課題について、教えてください。指導者の問題等、今の状況を教えてください。</p>
<p>深谷学校教育課主幹</p>	<p>本年度、部活動改革検討委員会を立ち上げまして、4回ほど開催させていただいております。委員は、スポーツ協会の方や、総合型スポーツクラブの方、あと学校の関係者等です。まずは、中学校の部活動の地域移行をどうしていくかということ協議していただきました。小学校については、放課後こども教室において、令和5年度以降でいろんなスポーツをやっていく予定です。一つの種目に限らず、文化活動もありますし、スポーツ活動もいろんな種類のスポーツを体験していく予定です。中学校においては、土日だけの部活動を、令和7年までには地域移行を進めるということでございます。実際に検討していただき、できそうな種目がカヌーと、柔道でございます。カヌー協会がしっかりしておりますので、土日の部活動を地域移行することへの体制も、ほぼ整っている状況です。柔道も一つの中学校を拠点にして、そこでみなさんが活動できるような形ができる状況でございます。他の種目については、どこで活動するのかという案はできていますが、体制としてはまだできておりません。令和5年度以降で進めていくということでございます。令和7年度までに体制を全部移行していくということを進めているということです。</p>
<p>柴田委員</p>	<p>補足させていただきます。みよし市では、スポーツ課とも協力しながら、スポーツ協会や総合型の地域スポーツクラブ、文化協会など、活動されている方とうまく連携をして、中学生の部活動を地域に移行できるようにしていきたいと考えています。文化協会は、積極的に関わろうとしてくださっていて、市内文化部の子を募って、年に2・3回文化講座を行う予定です。その後、実際の地域移行につなげていきたいと考えています。</p>
<p>林スポーツ課長</p>	<p>もう少し質問します。カヌーと柔道が先行してやることが分かりましたが、例えば柔道の部活を行っている子が柔道に取り組むのではなく、同じように野球やっている子、卓球をやっている子も違うスポーツ、例えばカヌーを体験するというようなイメージはありますか。 特化してはいないということでございます。各学校でも自</p>

	<p>分がやりたい種目がないということがありますので、子どもの需要に応じて、やりたいものができるようにすることがベストだと思います。</p>
鈴木睦子委員	<p>やりたいことを見つけるために、いろんな種目ができるように、小学生から見たり体験したりできることは、すごく大事なことだと思います。</p>
林スポーツ課長	<p>小学校が令和5年度から、放課後こども教室を実施していきます。こども教室で参加してくる子は、現在の小学校の部活動で行っているバスケット、サッカー以外のいろいろな活動に携わっていくことができます。自分がやりたいと思うことを見つけられるきっかけになるとと思います。</p>
柴田委員	<p>基本は、自分がやりたいと思う種目を体験することになりますね。平日の部活の延長を、土日行うということはないということですか。</p>
深谷学校教育課主幹	<p>今の部活は大会もあるので、そのようにはいかないのです。地域に移行できる種目で、休日どういったところと連携できるかを考えていきます。体験できる種目を増やすことをイメージしています。</p>
柴田委員	<p>そういった環境を整えた方とよいと思います。活動場所を学校とかにできれば、結構増やしていけると思いますが、いろいろ大会が、土曜とか日曜日行われ場合に、誰が大会に連れて行くのかという課題も出てくると思います。資格がない人が連れて行くこともできないでしょう。いろいろ課題はあると感じがします。</p>
富樫委員	<p>体育スポーツ面での地域移行ができましたけど、文化面では、長年北中学校で文化講座をやっています。1年に1回行っています。文化協会では、水彩画、和紙ちぎり絵、将棋など、生徒が希望するところに集まります。中学校1年生から3年生まで、一つのところに集まります。この取組を生徒のニーズを踏まえながら延長して行うという方法もあります。生徒が希望される活動が分からないと、文化協会も動けないので、子どもたちの気持ちを大事にしてから、動かしていただこうと思っています。</p>
鈴木睦子委員 富樫委員	<p>北中学校で始められたきっかけがあるのでしょうか。 合唱コンの前日に、文化祭の一環で文化講座として、五部もちづくりや菓子づくり、お茶などで、先生もいらっしやっています。例えば、将棋講座は、高齢の方が、6・7人集まってきて、対面で将棋を打っています。写真講座は5・6人で、現像まで行っています。どの講座も希望者を集めてやっています。2時間位ですが、ひとつの作品をつくれますから、すごく良い体験だと思います。こういう活動をうまく地域に移行していけると、よいと思っています。</p>
事務局・大成 山内学校教育課 地域担当	<p>コミュニティ・スクールとかと、少し絡んできますか。 計画にあったように、初めは三好中学校で始めて、そのあと三好中学校区の小学校ということでしたが、前倒しをして、中学校に先に作りました。まさに部活動の地域移行も踏まえ</p>

	<p>て、地域からいろんな方たちにご協力いただけることを思いながら進めました。今、スポーツ課の課長さんがお見えですが、例えば学校開放で活動している方に声をかけ、土日に来ていただけないかとか、土日の部活動の地域移行への理解を学校や役所からだけでなく、地域の人にも、一緒にやっっていこうということを知ってもらうために前倒しました。コミュニティ・スクール構想でも、今度小学校でも、放課後こども教室で、縦割りの子どもたちの放課後の使い方を考え、子どもたちが集まって、大きい子から小さい子まで集まって、昔の文化を勉強しようとか、野山に歩き回って虫を取ろうなどの活動もあり得るかなと思います。受け皿って言葉は、こぼれたもの、落ちるみたいなイメージなので、あまり使いたくないと思いますが、子どもの活躍の場を作ろうということで、地域の人たちの力を活用するために、コミスクを広げていきたいと、今、夢を見ています。</p>
<p>富樫委員</p>	<p>学校というところは、用事がなかったら、とても入りにくいところですよ。ある事件があってからは、いつでも門が閉まっています。ピンポンを鳴らさないといけない状況になっています。地域の方が出入りされるような状況になったときには、それはとっばらわれないといけないと思います。そうしないと気楽に学校を行って、子どもたちと一緒にスポーツをやったり、いろんなことをやったりできないのではないかなと思います。地域連携の第一歩は、地域の方が気楽に来てもらえるという雰囲気を作っていくことからだと思います。三好中学校では、草取りからやり始めています。先日、も三中大学ということをやられていました。大学生が10人くらい来てもらい、大学ではやっていることを話してもらいました。京都からもきていただいていた。それも一つの地域連携になると思いました。年齢を重ねた人等も必要ですし、学生などの若い人も力になってくれたら、心強いと思いました。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>地域の方が入るきっかけとして防災に関することを取り上げてはどうか。小学校単位で、教育委員会と防災課が連携をしていただくことも大事だと思います。</p>
<p>山内学校教育課 地域担当</p>	<p>防災に関わることをコミュニティ・スクール構想の柱にしている学校もあり、実は本当に難しいことですが、中学生も地域の戦力という意味で価値があると思います。お弁当を配ったり、学校の中を案内したりすることはできる。大人の人と地域の区長さんたちと、生徒の代表が30人程度集まり、防災のゲームをしながら、もし中学校が避難所だったら、どんなことができるか考えます。生徒たちもホテルに行くわけではないし、避難所に市役所の人には来ないので、自分たちでやるということの勉強を進めていこうということです。それを北中学校モデルで進めています。大村先生が言われたように、子どもの意見を聞くことも大切にしたい。</p>
<p>事務局・大成 内田委員</p>	<p>図書館関係で、どうですか。 この作戦18の読書好きな市民が増えるような環境づくりに</p>

	<p>ついてですが、現在、みよし市内の小中学校にすべての読書ボランティアが入っています。総勢150人前後です。それ以上のボランティアがいると思いますが、その方たちに、もっと読書が進むような積極的な取組をしていただきたいと思っています。現状としては、個々に任せて絵本の読み聞かせが中心です。中学生にも、絵本の読み聞かせが中心です。絵本の読み聞かせによって、刺激されて読書が好きな子が増えたということもあると思うのですが、今後はさらに踏み込んで小説や少し分厚い本に挑戦できる子を増やすことを、ボランティアの方にも理解していただかないと思っています。図書館で、読書推進講座がきちんとされていますが、定員が20名程度で、ほんの少しの人たちしか受講できない状況です。もっとたくさんの方に来て欲しいと考えても、集まらないという現状だと思います。しかし、ボランティアさんが各学校に20名以上いるからこそ、年1回の専門家の講座は受けられるようにしていただき、ボランティアさん一人一人が正しい知識をもてば、すごい力になっていくと思います。学校教育課の方でも、学校司書さんをちゃんと配置してくださっていると思うのですが、各学校に一人ではありません。ですから、市民の中で、読書ボランティアをやってくださっている人を育てていくことが、子どもたちにもすごく影響を与えていくと思います。子どもが読書に目覚めて人生を切り開いていく力を身に付けていくような素晴らしい講演を、毎年やってくださっています。講演が素晴らしいので、学校に講師の先生を派遣することを進めたら、かなり進むと思います。</p>
<p>二子石生涯学習課長</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。本当によい先生が来ていただけています。ただ、やり方を検討して参りたいと思います。</p>
<p>事務局・大成</p>	<p>生涯学習にも関わりますが、アンケートの自由記述に、オンデマンドの配信があるとよいというアンケート結果があります。後々見られるような録画の講座や、対面講座等とハイブリッドでできるような方法があるとよいとアンケートに書いている市民の方もいらっしゃいますが、その辺はどうですか。</p>
<p>二子石生涯学習課長</p>	<p>事前予約制ですけれども、そういった方も受け付けて、やっております。ネットでの配信にむけての設備が整ってきまして、今徐々に始めているところになります。ただ、ライブだけで、録画をし、ホームページでというところまで、行き着いてないので、そのあたりについては当然講師の先生の承諾も必要になって参ります。今後講演を開いていただければ、つめて参りたいと考えております。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>子どもたちは、ふるさとみよしの副読本を利用しながら、勉強していると思います。すべての学校ではないですが、資料館の方が出前授業を一年間に2校やっているの、本物の人が来て、授業を進めるのもいいと思います。本物を見られるというのはすごい大きな影響力があると思います。</p>

<p>事務局・大成</p> <p>大地委員</p>	<p>やはり、アンケート結果でも述べたように、子どもたちは、実体験や、実際にやってみたいという思いが強いです。お互いに会って話し合うとか、自分で活動して納得したいとか、そういった思いがあります。</p> <p>美術館のツアーでは、破片とかを見せてくれて、やはり触る機会があつて心が動きます。こういう会議で、理解するのは違います。やはり触れるとか触るのは大切だと思います。そういう機会がたくさんあるといいなと身をもって思います。地域の力を生かして、ボランティアさんを生かして、来年は、もう一步進んでいくことが大切だと思います。</p>
<p>大村委員長</p> <p>菅田学校教育課主幹</p> <p>大村委員長</p>	<p>ありがとうございました。事務局の皆さんは自席にお戻りください。それでは、協議内容を共有したいと思いますので、各グループで話し合っていた内容を、ご紹介ください。</p> <p>Aグループ発表</p> <p>一番に考えたのは、子どもたちの幸せを中心に考えて進めていくことが大事です。子育てに困っている家庭にどのように寄り添っていくのか、みよし市は今のところ非常に、良くできているというご意見をいただきました。学びの森での支援体制も、ハートケア教育サポーターの方が、社会福祉士の勉強をし、研修の方も積極的に参加をしています。専門的な力をつけている専門相談員も、臨床心理士の資格を持ったカウンセラーさんがきちんと家庭を支えて、学校にもつなげている。こういう支援体制をさらに充実させていくと、本当に困っている家庭の方は安心して子育てができるだろうという意見をいただきました。保護者の方は、専門的な力をすごく欲しているので、そういう研修をこれからも大事にしてほしいし、みよし市の保育士さんたちは、こうした研修を本当に夜遅くまで、本当にみんなで力を合わせて検証していることを伺いました。素敵な町なので、さらに広げていけるとよいという意見もいただいています。相談窓口の周知についても、最近紙ではなくて、ホームページだとか、SNSで広がっていくことが非常に多い。そういう意味でも、子育て支援課の方で委託をしている子育て支援アプリの活用は非常に有効であろうという意見も出ました。児童クラブについても、みよし市では、小学6年生まで、手厚く受け入れているけれども、さらに、内容をきちんと充実させていくとよいと意見がありました。その充実が、家庭の方への安心安全につながっていくだろうということが出ました。さらに充実させる相談支援として、現在は平日にきちんと対応しているが、もし可能であれば、休日もやっていくと、さらに支援の体制が整うという意見もいただきました。基本的、みよし市は、多くの項目で努力をしているという意見をいただきましたが、さらに広げていく方法をしっかり考えていただきたいです。</p> <p>ありがとうございました。それぞれグループによって論点違いますので、ご意見ご質問もグループごとにいただければ</p>

<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p> <p>増岡教育長</p>	<p>と思います。Aグループのご報告について、Bグループ、Cグループの方から、ご質問、ご意見があればいただきたいのですが、いかがでしょうか。</p> <p>私の方から2点お願いしたいのですが、一つは困っている家庭への支援がうまくいっているということで非常に素晴らしいと思いますが、全体的にやや心配なことが、外国ルーツの子どもたちが抱えてる家庭の問題なんです。ですから、そうした外国ルーツの子どもたち、あるいは家庭の困り感、その相談というのは、どれくらい寄せられていますか。県全体でいくと、小学校中学校までは、あまり出ていませんが、高校進学段階で、一気に矛盾が出てきていて、日本語も十分習得できてないということが課題になります。高校に進学できても、ドロップアウトしてしまう方も多いです。小中学校までに、本当は取り組んだ方がよいことが、なかなか聞こえないから、十分に支援ができていない状況があるような気がします。みよし市では、いかがでしょうか。</p> <p>それからもう一つは、児童クラブです。待機児童という形ではないということですが、それが移送事業によって待機がないということです。緊急避難的には、それでいいかと思うのですが、やはり基本的には地域で子どもたちを育てていくということであれば、それぞれの学区単位でニーズにこたえていくといったことが取り組まれた方がいいと思いますが、それについて保護者からの声が出てないかどうか、この二つについて、いかがでしょうか。</p> <p>外国籍の方についてのことですが、本市では、初期指導教室というものを設置しております。特に日本語がなかなかままならない小中学生を対象に、家庭からの申請を受けて、初期指導教室に通います。3ヶ月を一つのスパンとしてとらえていますが、3ヶ月での習得が難しい場合には、さらに延長して、初期指導教室に通う形をとっています。同時に初期指導教室以外にも、各学校には日本語教育担当教員を配置いたしまして、授業から取り出してマンツーマンで日本語指導を行っていき、基本的な日常生活に困らないように支援しております。</p> <p>就学した後の子どもではなく、就学前の子どもたちへの支援として、みよっこひろばという名前で、年間16回、就学前にNPO法人のトルシーダを中心に、就学前に勉強する練習をお子さんたちにしていただいています。児童クラブについては、待機をなくすためもありますが、本来は部活動の地域移行とか、小学校の課外活動が、学校から切り離されていくときの体験の場として、みよし市内の各小学校に放課後こども教室を開設することで、それが放課後児童クラブと一体的に運営していけるようになっていけば、行く行くはそれぞれの学校で網羅されていくだろうという計画です。学校から帰った後の子どもたちの体験の場とか、整備場所を作る予定であります。この5年から始めていきます。</p>
---	--

<p>大村委員長</p>	<p>最初の点については、おそらくそういった手だてをされていると思うのですが、それで本当に大丈夫かどうかということです。つまり、このアンケートでも外国ルーツの子どもたち、あるいはその保護者がどういう意見をもっているかというところまで手が届いてない気がします。一律のアンケートではなく、少数でも特別なニーズをもっている子どもたちや家庭には、そういった調査の仕方をしていただきたいということを少し申し上げておきたい。</p> <p>児童クラブについては、施策の中身が移送中心に書かれているのが気になりました。今ご説明いただいたように、放課後児童クラブと子ども教室と両方を取り組んでいくということで、学区単位で取り組めるということですので、今後その取り組みを期待したいと思います。</p> <p>ありがとうございました。それでは他、よろしいでしょうか。よろしければBグループ、お願いいたします。</p>
<p>多治見学校教育課主幹</p>	<p>Bグループ発表</p> <p>Bグループは学校教育という観点で主に四つの策定について、意見が交わされました。</p> <p>まず一つ目が、作成6-1のICTを活用する力についてです。各校小学校、中学校ともに活用が進んでいます。その理由としては、研究員を各校一人置いておきまして、その研究員の実践を資料集にまとめたり、実践を研修会で紹介したりしながら、共有をしていることが、活用する力を伸ばしていくことになっているのではないかと意見をいただきました。</p> <p>ただ、教員だけで子どもたちに対応することが難しい面もあり、サポーターがいるときに頼りがちになってしまう現状もあります。そのため、サポーターの配置拡大を望みたいという声がありました。また、持ち帰りという点で、慣れとも出てきており、学習以外の使い方をしてしまうところもあります。子どもたちの情報リテラシーの向上を育むような取組をしていかないといけないなという意見も出ています。子どもたちの思い、考えというものを発言したり、可視化したりして、みんなの考えが共有できるような活用方法を考えていきたいという声が上がりました。</p> <p>それから、2点目です。ふるさと学習についてです。全中学区で地域の特色が違うのが、みよし市の特徴という話をしていました。特に、その特色や違いを知った上で、ふるさとのよさに気づいて欲しいという思いがあります。それを知るすべという点でいったときに、今、歴史民俗資料館はありますが、子どもたちが行ってみたい、やりたいみたいというものにつながっていかないのではないかと意見もありました。もっと郷土愛を育ていけるような、ベースとなるような大きな施設、それを学べるような民俗資料館などの施設の充実を望む声が上がりました。</p> <p>それから3点目です。いいじゃんスポーツチャレンジの取</p>

大村委員長

組について、学校側から、非常にいい試みでとてもよかったという声が上がりました。今回は大縄でしたが、運動として育むコミュニケーション能力というのも大事で、連動をしながら、子どもたち同士がつながりをもてるようにしていけるとよいという意見がありました。

最後です。心の教育、健康保持ということで、不登校の子どもたちが増えているってこともあって、まずは個々を保つ方法を学ぶ機会をもつことが必要ではないかという意見がありました。道徳教育だけでなく、北欧が今取り組んでいる子どもたちが自身が、自分を見つめ直す教育もしていけるとよいという意見がありました。以上です。

ありがとうございました。

それでは、Bグループのご報告についてのご質問等がありましたら。Cグループの委員の皆さんいかがでしょうか。よろしいでしょうか。私から2点、質問をさせていただきたいと思います。

一つは、コミュニティ・スクール、地域学校協働活動についてです。両輪でということが進められていますが、これについては学校教育課だけでは駄目だと私は思っていて、生涯学習推進課と協働の取り組みにしていかないと、なかなか進んでいかないし、地域の人たちの参加も難しいのではないかと思います。これについて協働の取組をされているのであれば、ぜひご紹介いただきたいです。今後はそういった取組ができるかどうかもお伺いしたいです。それから、不登校の子どもたちについては、最初のご報告にもあったように、今増えています。全国的に増えています。それについては心を平静に保つということ、それを考えたいというお話でありましたけども、不登校の子どもたちは、非常に一人一人状況が違うと思います。なぜ増えているかということも、かなり複雑だと思っていて、コロナ禍の影響もあって、そうした家庭中心の生活に慣れてしまったという面もありますし、また最初にお話したように社会的な経験が非常に少なくなってしまう、ひきこもる傾向もございます。しかし一方、文科省の方針も変わってきていて、不登校であること、それを必ずしも良くないことと考えること、学級や学校に戻ることが第一義的な目標にはしないと変わってきています。つまり、それぞれの子どもが自分に合った学習の場を見つけ、それによって社会的に自立していけば、認められるべきだという考え方も出てきており、家庭、学校、あるいは先生方が一人一人の子どもに対して、どういう支援をしたらいいのかというところに、迷いが出ているのではないかと思います。ですから、不登校が今増えてきているということについては、かなり集団的な研究が必要になっていると思います。私は岡崎市の校内フリースクールの取組の効果を見て、非常に興味深いです。ただ、不登校の子どもたちに対する支援ではなく、学校全体が多様な子どもを受けとめられるような格好にして

新美教育部参事兼
学校教育課長

いく方向で取り組まれていて、面白いと思っています。みよし市の場合、そういった不登校の子どもたちへの支援を、どのように今進めようとしているかということ、少しご紹介いただけたらと思います。この2点お願いいたします。

まず1点目のコミュニティ・スクールの件についてですが、先生がおっしゃるように、今はどちらも学校教育が主導で動いている部分があります。ゆくゆくは学校教育課だけの取組ではないと捉えていますので、生涯学習推進課とタイアップしながら進めていきたいと思っています。

2点目の不登校についてです。みよし市でもすべての学校が、生徒と向き合って話をして今進めているところでありませう。原因の一つには、限定はできませんが、コロナ禍で人とのかかわり合いが薄くなり、家にこもってしまう場合もあります。いろいろな要因が絡んでいると思いますが、子どもたちと対話ができると一番いいと思っています。先ほど岡崎の校内フリースクールの件が出ましたが、本市でも現在、ある中学校で校内フリースクールの設置を進めています。ただ、問題としては、校内フリースクールに来た時に、対応できる教員を特別に配置されているわけではないので、授業が空いている教員が入れ代わり立ち代わり入っている現実があります。そのため、なかなか落ち着いた状況ではなということ、令和5年度からではありますが、学校に登校するけども、なかなか教室に入れない子に対して、きちんと時間を取っていただけるような教員配置をしていくところでありませう。

みよし市には適応指導教室が学びの森にありますので、当然紹介をしながら、子どもたちが学校に行く、戻るというよりも、それぞれの子どものに合った学び方というのを一緒に探して考えていくというようなスタンスでやっていかなければと思っています。

大村委員長

ありがとうございました。2点目の不登校の子どもに少し触れました。岡崎市の校内フリースクールは、来年度から全中学校に設置するというようなお話をしましたが、担当教員を一人つけること、それから非常勤の先生をつけること、さらには地域の人たちから支援員の方が数人ついていることで、非常に手厚い体制をとっていたのが、印象的でした。そういったことをするならば、やはりそうした手だてもぜひお考えいただければと思います。

それでは、Bグループはよろしいでしょうか。ではCグループ、お願いいたします。

Cグループ発表

事務局・大成

まずは作戦14番の生涯学習についてです。成果指標として延べ人数がいいのか、それとも実人数がよいのかが話題になりました。広く市民の方に受講してもらおうという目的であればどちらがいいのかという成果指標に関するご意見をいただきました。土日開催については、受講者のニーズに応じて

やっていることでした。言語的なことを土日でやってみえ、ニーズに合わせてこれから展開をしていくということでした。次年度は、サンライブだけではなく、おかよし交流センターでも開催する予定であります。次に話題だったのが、スポーツ面で、土日の部活動の地域移行についての進捗状況ということで、現在検討委員会で進めているところです。令和5年度からカヌー・柔道については実施していく方向です。文化講座についても、スポーツと絡めて、文化講座でも、子どもたちの気持ちを考えながら進めていくということで、地域移行していくということが話題になりました。小学校時代の放課後子ども教室等を通して、子どもたちが幅広い体験ができる環境づくりが必要ではないかというご意見をいただきました。部活動の地域移行も含めてコミュニティ・スクールを中学校で先にやっていくということです。子どもたちの活躍の場の確保という面で、コミュニティ・スクールが中心に協力していきながら、やっていくことが大切というご意見が中心です。支えてもらえる地域の力を生かすということで、防災教育の面を取り入れたらどうかという意見をいただきました。いずれにしても子どもたちが、いろいろな種目に挑戦できるような環境づくりを進めたらどうかというご意見が多かったように思います。

次に18の読書好きについてです。現在市内の全小中学校にボランティアで入っていただいています。その方々に正しい知識をもっていただけるように働きかけると、読書好きを増やす一つの方向性になり、手だてとしても強いという意見をいただきました。最後本物に触れたり、陶器に触れるなど本物に触れることが子どもたちの心を動かすという意見をいただきました。実体験をともなった活動を、進めたらどうかという意見をいただきました。以上になります。

大村委員長

ありがとうございました。それでは、Cグループのご報告について、ご質問等があればいただきたいですが、いかがでしょうか。最後のふるさと学習に関わってはBグループの協議とも響き合うところがあるかなと思いますが、学校教育と社会教育が、どうつながっていくことがよいのか、とても大事な論点だと思います。Bグループの方からよろしいですかこの点について、よろしいですか。

宮田副委員長

学年で次年度やりたらいいなというのが、ぶどうの袋がけです。今年もみよし市の提灯飾りを出してもらったのですが、やはり人数が絞られています。それを広げていくということで、地域の力をお借りして、授業で、書道の書き初めの前に授業でご活躍いただきました。本当にお力をお借りしました。家庭科で地域の地産地消ということから、切り干し大根づくりで、次年度は家庭科の調理実習でやっていく計画を立てております。それから剣道では、三好高校の剣道部や地域の経験者に、体育の授業でやっていただくことも行っております。地域コーディネーターの方が言われるのは、今のみよし市が

<p>近藤委員</p>	<p>あるのは、愛知用水のおかげですと言わます。南中学校の前にもあり、ぜひ子どもたちに集会とかで使って紹介して、この歴史を伝えて欲しいと言われます。また、南地区にはトヨタ自動車の工場がたくさんあります。</p> <p>ふるさとみよし市として、三好池祭りだとか、いいじゃんとかが出ていますが、基本的にはふるさとを知っているというのは、やはり昔から現代に至るまで、どういう道筋を立てて、今のみよし市があるかということだと思えます。点があるのではなく、線でつながったところで、自分たちのみよし市を子どもたちは理解していくのだと私は思っています。</p> <p>結構、みよし市の猿投窯の一大産地であった時代から尾張と三河の境であったみよし市で、大岡藩の3分の1はみよし市が全部納めていたという歴史から流れて、愛知用水ができて大幅に変わり、東名だとかいろいろ入ってきて、今のみよし市があります。その辺の全体の流れの中で、みよしはどういう所ですかと言った時に、このアンケートにあるような項目もいいですが、全体が知って、こういった項目も知っているという子どもを育てていかなければならないと思えます。それには豊田のような博物館まで行かなくてもいいと思いますが、一番ベースとなるみよし市の資料館で、古来から現在の至るみよし市を見て、子どもたちが理解できるような実物があるとよいと思えます。副読本と両方で学べるような物がないと、ふるさとみよし市という感覚がなかなか育たないと思えます。以上です。</p>
<p>大村委員長</p>	<p>ありがとうございます。それでは今、ABCグループ、それぞれのご報告いただきました。おそらく委員の皆さんも、その協議の中で、いろんなご意見をいただいたかと思えます。最後に、委員の皆さん一人一人からアンケート、それから今年度の施策の状況を踏まえて、ご意見をいただけたらと思えます。ただ、時間もありますので、大体1分程度でお話いただければと思えます。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、名簿に沿って順番でご意見をいただきたいと思えます。それでは、杉浦委員さんから名簿順でお願いしたいと思えます。</p>
<p>杉浦委員</p>	<p>私は今日、子育ての支援で勉強させていただきました。子育てに限らず、みよし市さんの行政の取組は本当に手厚くて、まずは子どもありきというような考え方でとらえていることに、本当に感銘を受けております。特に、この子育て支援については、今日お聞きして専門的な方の育成を含めて、手厚い子育て支援も考えられていて、実践に移っているということで、とても心強く思いました。今後の一層の充実をお願いしたいというか、期待できそうだと感じました。どうもありがとうございました。</p>
<p>大地委員</p>	<p>社会教育委員として、社会教育の面でやはり気がかりなことがあります。社会教育委員会の会議でいろんなことも話し合っており、生涯学習についても、いろいろ報告を受けたり</p>

	<p>とか、現状教えてもらったりとかしています。今回強く思ったのは、この会で教育プランとしてある社会教育と、やはりそちらの委員会とのつながりを私がしっかりしなくてはいけないと感じています。この会で目指しているものを、社会教育委員会としてどういう方向を向いて、どのように考えていかなければいけないのかということ、社会教育委員会のところで、生涯教育課の方にも伝えていただいて、社会教育委員として考えていきたいと思えます。少し大きな目でみたいということを感じました。公民館での社会教育ということも出てきていますので、公民館の担当が私ではなくて、他の社会教育委員がやっているの、そのあたりの連携もあって、みんなでこれから強く考えていきたいと思えました。</p>
<p>宮田委員</p>	<p>子育てというのがすごくあって、学校ですごく意識しているのは、自立できる子に育てたいという思いがあります。自立というのは、自分でお金を稼いで、自分で食べていけるようにしたいということで、学校では基礎基本の力とかありますが、機会あるごとに授業は本当に一生懸命受けなさいと言っております。キャリア教育で大事にしたいなということ、を思っていて、将来自分で食べていける子に育てたいと思えます。地域の方から言われるのは、先ほどもありましたが、農業後継者をやはり南部地区は作りたいという思いです。来年はぜひ、ふどうの袋かけとか、サツマイモや大根とか、学年を決めて入ってもらえることを計画しています。</p>
<p>春山委員</p>	<p>学校教育の立場から、少しお話をさせていただきます。学校教育の成果について大変満足しているという項目が、小学校と保護者が下がっているということも大変課題だなと思、重く受けとめております。学校教育に期待されていることにつきましては、市民、保護者、教員が同じ方向を向いているということがありましたが、課題が基礎的な学力の定着、個性を伸ばすことが、他の項目よりも高く、課題であると思、友達が話し合う、観察や実験などの授業が好きというところも増加していると書いてあります。学校では基礎的な学力の定着や、基礎的な知識技能について、困ったときにどうすればいいのか、計算ができるということよりも、どうやったら計算ができるだろうとか。例えば、分からない課題に出会った時に、問題集の答えを見る子ではなくて、どうやったら自分で解決できるようになるだろうと考える。そうすると、自分はこの実験や観察や友達と話し合うということがすごく大事な基礎基本だということだと思っております。以上です。</p>
<p>鈴木誠直委員</p>	<p>本日いろいろお話を伺い、先ほど委員長の先生から、外国籍の方のニーズをどれぐらい把握しているのかと質問がありましたが、確かにこのアンケートも、もしかしたら外国籍の方のニーズというのは、ほとんど反映できてないのかもしれないと思えます。また、自分の学校で、いろいろと外国籍の方に寄り添ってと思っておりますが、本当にそういう</p>

	<p>ニーズをきちんと受けとめられているかなと振り返っております。例えば、学校評価を行うにしても、外国籍の方が分かるように考えて実施しなければいけないと思いました。本当に外国籍のお子さん、多国籍の方々が多くて、もう通訳さんが常駐し、本当全然困らないぐらいの状況ですので、声を拾っていくようなことを考えていく必要があると思いました。以上です。</p>
辻委員	<p>子育て支援について議論させていただいたのですが、本当に必要なサービスを受けられるように、悪い意味ではないんですけど、少しおせっかいになっても、プッシュして、こんな支援が受けられるということは、もっと広く情報発信していくということが必要だと改めて感じました。また、学ぶことは楽しいこと、みよしの歴史を知ることや日本の歴史を知ることもし楽しいという思い、探究心を幼いときから育んでいきたいと強く思いました。</p>
佐々木委員	<p>保護者の立場として参加させてもらっているのですが、保護者として思うことは、子どもたちのために、学校や地域に望むことはありますが、みよし市の施策だとか、知らないことがたくさんあったな思いました。学校の方も、親の考えと同じ方向を向いて、子どもたちを見てくださっていることも分かり、安心した部分も多いです。みよし市のふるさとよさを語る話も出ましたが、子どもたちは、興味をもつきっかけがなく、そのきっかけがあつて、みよし市が好きになって、地元愛につながっているところで、どんどん広がっていくような取組というか、お考えがあるといいなと思いました。</p>
富樫委員	<p>私はいろんな思いが、ぐるぐる回っていますが、私の使命として、あるいは文化協会として、一番今やらなければならないことは、部活動の地域移行に、どれだけ文化協会が協力できて、その協力できる筆頭達を輩出できるかということにかかっているという思いでいっぱいです。あと、先ほど近藤委員がおっしゃられましたふるさとみよし市の元になる資料館は大事だと思います。歴史のことをしっかりいろいろおっしゃってくださいましたけれど、それを今、私たちが聞いて、そうだなあと思いますが、それを見たり聞いたり、きちんと目で見て、触って、体験できる場所が、今のところみよし市にはないような気がします。学芸員の方はとても一生懸命いろいろ工夫してやってくさっていますけど、建物自体がもう古いですし、場所もあまり良くないので、考えていかなければならないという思いでいっぱいです。以上です。</p>
鈴木睦子委員	<p>先に近藤委員さん、富樫さんから言われたように、やはりみよし市資料館はとても大事ですし、もう少し場所を考えて、いろいろ考えていけばいいという意見をいただき、本当に私も同感でございます。皆さんの意見をお聞きいたしまして、幅広くみよし市教育を考える機会を得ました。大人が先に言うのではなくて、子どもは大人のパートナーだと考えて、子どもの意見を聞いていくというのが本当に大事ななと思いま</p>

柴田委員	<p>した。以上です。</p> <p>スポーツ委員の活動を通して、スポーツに親しんでいただけるような場所の提供をしていきたいと思います。</p>
内田委員	<p>小学校中学校のすべての学校に、読み聞かせのボランティアさんがいらっしゃって、すぐにこれだけ広がったわけではなく、2000年あたりから、一校ずつ一校ずつ増えていきました。ボランティアさん主導でやっていたので、ぜひ生かさない手はないと私はすごく思っています。そこで、図書館は一歩踏み込んで、学校の読み聞かせのボランティアにも手を差し伸べて指導をしていただくと、読書の推進にすごくつながると思っています。読み聞かせの現状から言いますと、やはり絵本が中心ですので、ボランティアさんの中には、本当に学年に合わない絵本を持ち込んで、10分間という時間を教室で読むということが実際ないわけではありません。かなり意識が高くなってきて、絵本を選んでいるので、それをきっかけに子どもたちが、読書に結びつけることはあるのですが、図書館からのアプローチもあって、よい先生のお話を聞く機会を、ボランティアさんすべてに行き渡るといいなと思っています。以上です。</p>
近藤委員	<p>アンケートの中でちょっと気になったこと2点あります。一つ目は心の教育の(4)のボランティア活動のところで興味がないというところが、小学校43%で、中学校が47%で、その上の方の人の役に立つ大人になりたいというのは、実は、90%と93%で、このギャップの要因は考えると、多分ボランティアの意味がよく分かっていないのではないかと思います。誰かのためにやるという、そういう活動だけのとらえ方をしているのではないかと思います。ボランティアというのは、もっと広い意味でボランティアあり、変な言葉遣いで相手を傷めつけるような言葉をしなくても、愛護というジャンルでボランティアに入っているだろうし、いつもにこにこしていることも、愛顔というところで、人にいい影響があります。これもボランティアの一種になるので、だからボランティアは、もっと広い意味があるので、教育の場でボランティアの概念を広げていく必要があると思います。それから19ページで、教育に関する情報で、学校以外に相談できる公的機関を知っているかということで、あまり知らない知らないの合計が66%です。大体の悩みは、誰かに自分の悩みを言葉にして、それを誰かに伝えることで解決につながります。けれども、そのことが知られていないこともあります。やはり教育委員会としては考えていかなければならないと思います。それから、その情報を得られているかというところで、得られていないと、ほとんど得られてないというのが32%なので、3人に1人はほとんど情報を得ていない。市がやっていることが、理解されてないなと思います。家庭教育だよりはぐくみについては、6番でどれも知らないというのは、市民が43%、保護者が30%なので、何とかしたい。実際はそれ</p>

<p>大村委員長</p>	<p>ほどお金かからないと思うので、取組を変えるだけで改善できることもあると思っています。</p> <p>ありがとうございました。それでは最後に、私の方からもう少しだけお話をさせていただきます。</p> <p>ぜひ、子どもたちの力を引き出すような取組をしていただきたいと思いました。例えば、ふるさと学習ですけれども、これはもちろん地域の歴史とか、あるいは地理とか、そういったものを教材化していく研究がやはり必要だと思います。それを学ぶ形にしていくということに、ぜひ先生たちも取り組んでいただきたいし、地域の郷土の方たちとか、関心のある方たちが一緒になって作っていくということがあるといいと思います。さらに言えば、それに子どもたちも一緒に取り組むことはできないだろうかと思えます。先ほど、部活動のことが出ましたが、例えば、郷土史の部活ができたりとか、あるいは地域の自然観察の部活ができてくると、そうした授業作りに子どもたちが参加できますし、また中学生が小学校に行き、小学生と一緒に勉強するというのもできてくるのではないかと思います。読み聞かせのことも出ましたが、中学生が小学生に読み聞かせをしに出かけるということも可能ではないかと思えます。そのような地域の大人と先生たち、そして子どもがつながっていくことが、今後のコミュニティ・スクールとか、地域学校協働活動の中から、やりやすくなっていくと思えます。そうした制度を、いかに生かして、魅力的な地域を作っていく、魅力的な学校を作っていくということになれば、非常に子どもたちにしても、保護者にしても、あるいは地域の人たちにしても、こういうふうに関わり、学校や教育が変わっていると実感できるようになるのではないかと思います。ぜひ、子どもが参加をすることで、より魅力的な学校や地域ができると方向を検討していただければと思います。ぜひお願いしたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>長時間にわたる協議で、委員の皆様から非常に貴重なご意見をいただきました。ぜひ、教育振興基本計画を今後実施していく中で、今日のご意見を生かしていただきたいと思えます。</p> <p>それでは協議をこれで終了させていただきます。事務局に司会をお返しいたします。</p>
<p>新美教育部参事兼 学校教育課長</p> <p>富田教育部長</p>	<p>ありがとうございました。今後の予定等について、事務局から説明させていただきます。</p> <p>事務局説明 ・今後の日程</p> <p>それでは最後に、お礼の言葉を教育部長、富田が申し上げます。</p> <p>教育部長お礼</p>

新美教育部参事兼
学校教育課長

以上をもちまして、第2回みよし市教育振興基本計画推進
委員会後、終了させていただきます。皆様ご起立ください。
一同礼、ありがとうございました。